

「放火火災の定義と位置付け」
まず、放火の実態について、火災統計上の整理をしておこう。
放火関連データは、火災統計上は、「放火」と「放火の疑い」に分けられており、前者は火災原因調査において消防機関が出火原因を「放

〇件弱で、昭和50年代後半から30年近く出火原因のトップを占めて来ており、全火灾に占める割合は、件数で2割、焼損面積では1割弱である。

【放火火災件数の推移】

出火原因としての放火の最も大きな特徴は、他の出火原因と違って、最近までずっと増加傾向にあつたことだ。

昭和30年から平成14年まで、出火原因別に火災件数の推移を見てみると、他の原因による火災が一時増加した後で減少又は横ばい傾向に転じているのに、放火だけは必ず

放火による火災が増えてくるとそれに対する対策が講ぜられ（電気火災、コンロ火災、石油ストーブ火災、風呂の空焚きによる火災など）、また春秋の火災予防運動などに重点的にキャンペーンが張られたりすることもあるのだろう。

ところが、放火だけは、そのような傾向を示して来なかつた。その理由は、物理的な対策の徹底が難しい一方で、「放火」は増

後半から急
め、平成14年
災の4分の3
は40%以上
という状況
た。

放火火災が減つてゐる！

火災に関する国際セミナーに出席を求められ、久しぶりに放火火災に関するデータをまとめ始めて驚いた。ここ数年、放火火災が急減しているではないか！

火」と特定したもの。後者は放火の疑いはあるが、出火原因として特定するまでは至らなかつたものだ。本稿では、この二つの合計を「放火」として扱うこととする。

平成21年(2009年)の消防白書によると、「放火」のように定義した「放火」の件数は、

放火以外の原因の火災
が上記のような傾向を示
している理由は、喫煙人
口の増減（たばこ火災）
や子供の増減（火遊び）
など社会的な要因もあり
そうだし、特定の原因に
の割合は、一
統れてきた。

めと考えら
他の原因
横はい又は
いく中で放
増加傾向を
全火災に占
反映してい
だし続ける

社会の歪みがあるた
れて来た。
による火災が
減少に転じて
火火災だけが
続けたため、
放火火災
めの不
物となりがちなものの不
設備等の安全対策や着火
対策を、火気設備・電気
て、火災を起こりにくく
する対策を考えた。その
理由でどこに着火するか
を統計的に明らかにし
て、火災の発生原因を分
析し、どんな火がどんな

物ほど放火されやすい
・外部から接近しやすい
ところに放火される
・手近な布や紙屑などに
放火される
・道路上のものに火をつ
けるより、建物敷地内に
入り込んで火をつける方
が多い

い。近隣の無防備なアリ
アが放火されれば同じだ
からだ。

放火件数を減らすため
には、「手間」と「人目」
を基本とした「放火させ
ない、されない環境づく
り」を社会運動として定
められた。これは別だ
うになれば話は別だ
元自治会なども、放
止に熱心にならざる
ない。その時の処方示
しておけば、連続

申し合わせる、などと
いうのがある。なるほど、
これなら放火犯が「もう
1軒火をつけてやろう」
と思っていても、「今日は
やめておこう」となりそ
うだ。

また、「放火監視カメ
ラ」の設置というのもあ
る。これは、炎センサー
は効果がない
のである。
減少に及
ぶべきな要

地水火風
恒牧野

チが行われて来た

火対策の基本だといふこ

に徹底できな
えて、幾つか斬新なア

間で3230件(23)

この時世に放火が急減している理由についても考えたい。

【放火火災件数の推移】
出火原因としての放火の最も大きな特徴は、他の出火原因と違つて、最近までずっと増加傾向にあつたことだ。昭和30年から平成14年まで、出火原因別に火災件数の推移を見てみると、他の原因による火災が一時増加した後で減少しているのに、放火だけは必ず

よる火災が増えてくると
それに対する対策が講ぜ
られ（電気火災、コンロ
火災、石油ストーブ火災、
風呂の窓焼きによる火災
など）、また春秋の火災予
防運動などに重点的にキ
ヤンペーンが張られたり
することもあるのだろ
う。

ところが、放火だけは、
そのような傾向を示して
来なかつた。その理由は、
物理的な対策の徹底が難
しい一方で、「放火」は増
し

「火災予防
方」

戦後、新
が構築され
因調査と火災
所（当時）

激に増加し始
半頃には「火
が放火火災」
になつてい
（都市部で
燃化の推進等のため、法
律・条令などの規制や J
ISなどの基準に取り入
れていくことで火災を減
らしていく」という考え方
方だ。
そのよう取り組みによ
り、放火以外の火災が一
時的に増加してもやがて
減少するようになつたこ
とは、既に見たとおりだ。
対策の考え
たな消防制度
た時、火災原
はツールと位
た。消防研究
かを中心となつ
災統計が火災
「放火火災の防止対策」
放火火災についても、
当然同じようなアプロー

などといふことが浮かび上がる。まあ、当たり前と言えば当たり前の話だが、このような分析から「放火するまでに一手間かけさせる配慮」と「人目を気にさせる環境作り」が重要な要素だといふことも分かってくる。具体的には、夜間に家の周囲を明るく保つとか、建物の周り(特に死角になるところ)に燃えやすいものを放置しないとかいうことが、放上

が治まるまでは熱心に着させることが必要だということだ。

だが、これが難しい。 分かっていても徹底できない、ということが放火対策の難しいところだ。その結果、地域共同体が崩壊し、都市化によって匿名性が増し、社会の歪みが強まるのと比例して、放火件数が増加し続けることになった。

放火件数の25%近くは連続放火と言わざるを得ない。連続放火は、一回か2回で治まるな

【連続放火の防止】

対策は分かつていて、自治会でパトロールとかいうことだが、このような古典的な手段

に実35%度始もつと手軽に「防犯力メラ」という手もある。〔平成17年以降、放火火災件数は急減〕その結果はどうか、50年近く右肩上がりで増え、続けてきた放火火災件数が、平成17年から突然急減し始めた。平成15年からやや減少傾向に転じていたが、平成16年の1万4006件から平成20年の1万0776件まで、たった4年間で、そのうちの1件もなかった。

私は自身は、連続放火策として地域ぐるみで取り組む「近所の底力」と的対策と、防犯対策として設置が進んでいる「防犯力メラ」の複合的な結果ではないか、と推測しているのだが…。

ついている今、何故急激に減っているのか、といふことについては、公的解説される必要があると思つ。

この時世に放火が急減している理由についても考え方をみたい。

【放火火災件数の推移】
出火原因としての放火の最も大きな特徴は、他の出火原因と違つて、最近までずっと増加傾向にあつたことだ。昭和30年から平成14年まで、出火原因別に火災件数の推移を見てみると、他の原因による火災が一時増加した後で減少しているのに、放火だけは必ず

よる火災が増えてくると
それに対する対策が講ぜ
られ（電気火災、コンロ
火災、石油ストーブ火災、
風呂の窓焼きによる火災
など）、また春秋の火災予
防運動などに重点的にキ
ヤンペーンが張られたり
することもあるのだろ
う。

ところが、放火だけは、
そのような傾向を示して
来なかつた。その理由は、
物理的な対策の徹底が難
しい一方で、「放火」は増
し

「火災予防
方」

戦後、新
が構築され
因調査と火災
所（当時）

激に増加し始
半頃には「火
が放火火災」
になつてい
（都市部で
燃化の推進等のため、法
律・条令などの規制や J
ISなどの基準に取り入
れていくことで火災を減
らしていく」という考え方
方だ。
そのよう取り組みによ
り、放火以外の火災が一
時的に増加してもやがて
減少するようになつたこ
とは、既に見たとおりだ。
対策の考え
たな消防制度
た時、火災原
はツールと位
た。消防研究
かを中心となつ
災統計が火災
「放火火災の防止対策」
放火火災についても、
当然同じようなアプロー

などといふことが浮かび上がる。まあ、当たり前と言えば当たり前の話だが、このような分析から「放火するまでに一手間かけさせる配慮」と「人目を気にさせる環境作り」が重要な要素だといふことも分かってくる。具体的には、夜間に家の周囲を明るく保つとか、建物の周り(特に死角になるところ)に燃えやすいものを放置しないとかいうことが、放上

が治まるまでは熱心に着させることが必要だということだ。

だが、これが難しい。 分かっていても徹底できない、ということが放火対策の難しいところだ。その結果、地域共同体が崩壊し、都市化によって匿名性が増し、社会の歪みが強まるのと比例して、放火件数が増加し続けることになった。

放火件数の25%近くは連続放火と言わざるを得ない。連続放火は、一回か2回で治まるな

【連続放火の防止】

対策は分かつていて、自治会でパトロールとかいうことだが、このような古典的な手段

に実35%度始もつと手軽に「防犯力メラ」という手もある。〔平成17年以降、放火火災件数は急減〕その結果はどうか、50年近く右肩上がりで増え、続けてきた放火火災件数が、平成17年から突然急減し始めた。平成15年からやや減少傾向に転じていたが、平成16年の1万4006件から平成20年の1万0776件まで、たった4年間で、そのうちの1件もなかった。

私は自身は、連続放火策として地域ぐるみで取り組む「近所の底力」と的対策と、防犯対策として設置が進んでいる「防犯力メラ」の複合的な結果ではないか、と推測しているのだが…。

つてはいる今、何故急激に減っているのか、といふことについては、公的解説される必要があると思つ。